

悲しみの記憶継承

道内の戦跡を「ダークツーリズム」として巡る試みを3回連載した。ダークツーリズムの魅力と日本における可能性について、金沢大学の井出明准教授(観光学)に話を聞いた。【聞き手・山下智恵】

——改めて、ダークと強調することには批評もありますか
「不謹慎」「のぞき趣味」といった批判が日本では根強い。だが、悲しみの記憶を失うことは現代にも弊害をもたらす。この意義を丁寧に説いていく必要がある。

「世界遺産」に代表される西洋の概念で、自分の命の意味、生き方を考えさせられるなどの変化がある。——「負の遺産」に赴くことや観光地として

金沢大・井出明准教授に聞く

北海道ダーク

ツーリズム紀行 番外編

近現代みつめる旅



金沢大学の井出明准教授—金沢市で

昨年、世界遺産登録された「長輪と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、禁教時代に重きを置くよう審査機関から指摘され、一度、日本としての推薦を取り下げた。世界遺産の目的は「顕著に普遍的な価値」を未来に受け継ぐこと。受け継ぐべき価値はアウシュビッツや原爆ドームなど負の側面を含む。

一方、文化庁が認定する「日本遺産」は、地域の歴史的魅力を紹介し、地域振興に結びつけるもので、ネガティブな面は事実上対象になっていない。——日本で負の側面の継承の動きが鈍いのはなぜでしょう
キリスト教文明圏では「天国と地獄」「生と死」など、二元論的な世界観を持っているが、日本では異なる。欧州では医療事故や飛行機事故など、法的な免罪を引き換えに、なぜその事態が起こったのか証言させる社会的な仕組みができてきた。

た。日本では個人の責任は追及するが、問題を構造的に分析し、再発を防ぐという発想が乏しい。悲劇を継承することになじみが薄いことが影響しているのではないか。
——今後、日本でのダークツーリズムの展開や課題は
地震や台風などによる自然災害が多い日本は、その分野でも独自のダークツーリズムの可能性がある。近代の自然災害は、社会や人的要因によって、大きな被害がもたらされてきた近代化の影が集約しており、土地を奪われたアイヌ、厳しい環境に置かれた開拓民や囚人労働——たくさんの痕跡が残っている。「博物館網走監獄」は初心者にもおすすめ。体験監獄食など娯楽要素を持ちながら、囚人労働を用いた開拓歴史や近代における刑罰の意味を考へることができ、伝承には消極的だ。実

にダークツーリズムの観点に基づく展開は自治体や事業者でもほとんど見られない。一方で、こうした旅に興味を持つ人、「悲しみ」を継承しようとする地域は存在し、広がりを持ち始めている。旅の意義を発信するとともに、こうした旅人と地域を結びつけていくことが求められている。

道内のおすすめスポットは、北海道は明治以降、近代化の最前線だった。日本が背負ってきた近代化の影が集約されており、土地を奪われたアイヌ、厳しい環境に置かれた開拓民や囚人労働——たくさんの痕跡が残っている。「博物館網走監獄」は初心者にもおすすめ。体験監獄食など娯楽要素を持ちながら、囚人労働を用いた開拓歴史や近代における刑罰の意味を考へることができ、伝承には消極的だ。実

地域観光資源の発掘・活用提案
小樽で20日講演会
ダークツーリズムを通して、地域の観光資源の発掘・活用を考えた講演会が20日、小樽市稲穂2の小樽経済セ

ンターで開かれる。講演会では、金沢大の井出明准教授が、ダークツーリズムの魅力を開拓の歴史や災害、アイヌといった道内ならではの題材を中心に紹介、観光資源としての展開を提案する。

午後6時半から、同センター4階Aホールで。無料。問い合わせは小樽商科大グローバル戦略推進センター研究支援部門地域経済研究部(0134・27・5482)。

【山下智恵】

市稲穂2の小樽経済セ

◆20日に「ダークツーリズム」講演 戦争や災害の跡を巡り学ぶ「ダークツーリズム」の意義を金沢大の井出明准教授が話す講演会「ダ

ークツーリズム」新しい旅の形」が20日午後6時半から、小樽経済センター4階ホール（稲穂2）で開かれる。

井出明准教授は東日本大震災の被災地の観光の在り方などについて著書がある「ダークツーリズム」研究の第一人者。北海道の近現代史の

遺産の観光資源化に関する論考もあり、講演では小樽の戦跡などの調査の成果についても話す。

小樽商科大グローバル戦略推進センター研究支援部門地域経済研究部が主催。無料。直接会場へ。問い合わせは同大☎0134・27・5482へ。